

卷 頭 言



研究会活動について

猪 瀬 博

情報処理学会の事業は、学会誌の発行、大会の開催、規格の制定、調査研究活動など、多岐にわたって行われているが、これらの諸事業は、情報処理学の急速な発展と変貌、およびそれにともなう会員数の増大と背景の多様化に見合った、規模と内容をもって推進するべきであることは今更いうまでもあるまい。

事実、本学会の発足当時と比較すると、学会誌掲載論文数は年間 15 編から 38 編（特集記事を除く）へ、大会発表講演数は 29 件から 206 件へと、飛躍的な増大を示し、また規格委員会の活動も積極的に行われて国際的にも評価されるに至っている。一方、調査研究活動についていえば、特定の分野に関しては研究委員会等を通じて熱心な討議が行われてはいるが、広範囲に及ぶ情報処理技術の一端をカバーするにすぎず、また一部の会員の参加を得るに止まっていたように思われる。その原因としては、本学会の財政的限界のほかに、関連ある他学会の会員でもある本学会会員の相当数が、これらの他学会の研究討議の場を利用している事情などをあげることができよう。いずれにせよ、この側面については、会員に対する本学会のサービスが必ずしも充分であったとはいえないようである。

しかし本学会の会員数が 6,800 名の多きにのほり、学会誌掲載論文数、大会発表講演数が次第に飽和点に達しようとしている今日、本学会独自の調査研究活動を活発化し、会員各位が関心をもたれる種々の課題ごとに研究会を組織し、ひろく会員に発表・討論の場を提供することが必要であると考ええる。これらの会合に

は本学会会員はもとより、関連他学会および広範囲にわたるユーザ層からも積極的参加をもとめ、相互啓発に資することができれば、情報処理学の進歩のみならず、本学会の将来の発展にも寄与するところが大きいものと思うのである。

研究会は主査及び若干の担当幹事によって運営されるが、すべての会員が自由に参加できるよう、学会誌等を通じて開催日時・場所・議題等が充分の余裕をもって予告されることが望ましい。また研究活動の成果は定期的に学会誌上に掲載され全会員に周知されること、会員は所望の研究発表資料を容易に入手できることなどが必要であろう。さらに情報処理学の急速な進歩に則して、研究会の新設・改廃を積極果断に実行し、そのために必要な予算措置も講じなければならぬ。あるいは研究会を随時各地で開催し地方在住会員の出席の便をはかること、応用分野に関する研究会を積極的に組織することにより広くユーザ層の人々の参加をもとめること、なども必要であろう。

本学会においては調査研究活動の推進を目指して、昨年調査研究運営委員会規程が制定され、本年委員会が発足した。この委員会は、会員中から委嘱された若干名と各研究会または研究委員会委員長からなり、学会における調査研究活動の企画と運営を行なうことになっているが、当面の課題を、すべての会員に対して開かれた研究会活動の発足においている。会員各位の積極的な提言と支持をえてすぐれた研究会が生まれ、会員各位のエネルギーが新しい研究会活動に結集されて、実り多い成果の得られることを念願している次第である。

* 本学会常務理事、東京大学工学部